大分県福祉会 会報

第 91 号

2026 令和 8 年度



遊具で遊ぶ清明あけぼの学園の児童と職員

社会福祉法人
大分県福祉会

社会福祉法人

大分県福祉会

もくじ

3	もくじ／理事長あいさつ
4-7	TOPICS
8	法人の理念・中期事業計画推進のための重点的取り組みと成果
9-11	法人データ・寄贈者一覧
12-13	法人からの報告
14-17	各施設からの報告
18-19	法人概要
20	私たちの想いを伝えるメディア
21	社会貢献活動



だれもが笑顔で暮らせる社会をつくる

社会福祉法人　大分県福祉会

理事長　安藤 覚

平素より大分県福祉会に対しまして、温かいご理解とご支援を賜り、心より御礼を申し上げます。

当法人は、多様な福祉事業を通じて、さまざまな困難や課題を抱える方々の暮らしを支えてまいりました。理念である「だれもが笑顔で暮らせる社会をつくる」そして、その実現のために「ひとりの困りごとにもまなざしを向ける」という姿勢をなによりも大切にしています。子育てへの不安や孤立、虐待や貧困、障がいのある方やご家族の悩み、地域のつながりの希薄化など、社会環境が大きく変化するなかで、人々が抱える課題も複雑化・多様化しています。しかし、どのような状況にあっても、その人らしく安心して暮らせる社会でなければならないと私たちは考えています。

2025年5月、地域とのつながりをさらに深める取り組みとして、地区の家「えんえん」を開設しました。「えんえん」は、福祉サービスの利用児者だけではなく、世代や立場を超えて地域に暮らす全ての方々が気軽に立ち寄り、安心して集える場です。地域福祉は、支援する側とされる側という関係だけでなく、だれもが地域の担い手として関わり合うことで育まれていくものです。その一助となることを期待しています。

また、昨年11月には児童発達支援事業所ミモザを開設しました。滝尾保育園の空き保育室を活用し、保育士と児童発達支援の専門職員が密に情報共有をおこない、インクルーシブ保育を推進しています。発達に特性のある子どもたちやご家族への支援ニーズは年々高まっています。早期支援と地域連携を大切にしながら、一人ひとりの成長をていねいに支え、その可能性を広げるとともに、ご家族が安心して子育てに向き合える環境づくりに努めてまいります。

こうした新たな取り組みは、ご利用児者、ご家族、地域や関係機関のみなさま、日々現場で利用児者に寄り添い続ける職員の力があってこそです。あらためて深く感謝申し上げます。これからも、社会の変化や地域のニーズに真摯に向き合いながら、福祉の専門性を高め、地域に根差した支援を実践してまいります。今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

1 別府厚生館は創立80周年を迎えました

2026年4月1日に創立80周年という大きな節目を迎えました。戦後間もない1946年4月1日に、別府市不老町（現在の別府市中央町）で旅館跡を借り受け、母子20世帯の受け入れと同時に保育事業を開始しました。当時、入所されている方の多くは、戦災者や国外から引き揚げてきた遺族の方々であり、この状況は1950年ごろまで続きました。また、1947年4月には生活保護法による母子保護施設の認可、1948年6月には児童福祉法による母子寮の認可を受け、事業を進めてきました。その後、1956年に現在の所在地である別府市立田町に移転し、木造平屋建て4棟を建設し、定員20世帯での運営を継続いたしました。そして、1983年に改築をおこない、現在の園舎にいたります。時代の変化とともに母子を取りまく環境や支援のあり方も変化してきました。そのなかで、私たちは一人ひとりの思いに寄り添い、安心して過ごせる場所づくりを大切にして支援を続けてまいりました。これまで地域のみなさま、関係機関のみなさまからの温かいご支援があったからこそ、80年という歩みがあります。この節目を新たな出発点として、これからも地域に信頼され、必要とされる施設を目指し、地域のみなさまとともに積み重ねてきた歴史を大切にしながら、子どもたちの未来のために、職員一同力を合わせて歩んでまいります。今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

- 1946年（昭和21年）4月1日 別府市不老町で母子寮並びに保育事業を開始
- 1947年（昭和22年）6月30日 生活保護法による母子保護施設の認可
- 1948年（昭和23年）6月30日 児童福祉法による母子寮の認可
- 1952年（昭和27年）6月1日 法人名を大分県福祉会と改称
- 1956年（昭和31年）12月15日 別府市立田町に移転、木造園舎新築
- 1983年（昭和58年）2月28日 園舎改築
- 2026年（令和8年）4月1日 創立80周年



①昭和21年当時



②昭和31年当時


③昭和58年当時

2 森の木創立20周年記念行事を開催しました

2005年に「わかば園」と「青松園」が統合して森の木が創立されてから、20周年を迎えました。2025年11月3日に記念行事を開催し、来賓・卒園生・元職員・ボランティア・地域の方々など、約100名の方々に参加いただきました。式典では施設長・来賓あいさつに続き、ピアノ・合気道・おとも太鼓の児童発表もあり、日頃指導していただいているボランティアの方々のおかげで、すばらしい発表でした。式典終了後は、手作りカレー・やせうま、目玉であるキッチンカーの唐揚げ・クレープ・韓国屋台などで、食事をしました。子どもたちは楽しそうに選んでいました。終了の時間を迎えても話の尽きない元職員や卒園生の姿に、施設が育んできた温かな絆を感じる節目となりました。



3 児童発達支援事業所 ミモザを開所しました

2025年11月1日、児童発達支援事業所ミモザが開所しました。ミモザは滝尾保育園に隣接し、子どもたちが日常的に多様な関わりのなかで育ちあえる、インクルーシブな環境を大切にしています。発達に特性のあるお子さま一人ひとりに寄り添い、温かい雰囲気のなかで支援しています。作業療法士・言語聴覚士・保育士などの専門職が連携し、作業訓練や言語訓練による個別療育に加え、制作活動や遊び・小集団でのリトミックやソーシャルスキルトレーニング（SST）など、楽しみながら学べる活動を取り入れています。

保育と療育をバランスよく組み合わせながら、子どもたちが安心して過ごせる環境で、「できた」と思える経験を積み重ねることで、自信や意欲を育みます。また、ご家庭や関係機関と連携しながら、地域に根差した支援をおこない、全ての子どもたちがともに育ちあえる環境づくりに努めています。

「ミモザ」の詳細は、P.17をご覧ください→




Photo: Naoto Kojima

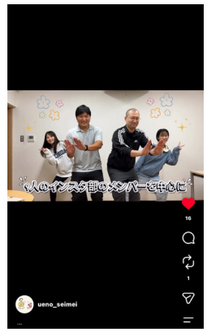
4 Instagramによる情報発信を推進しています

採用活動の強化を目的に新たにうえの園と清明あけぼの学園も、Instagramのアカウントを開設しました。福祉の仕事を目指す学生や、「福祉に興味はあるけれど、実際の雰囲気を知りたい」という方々に向けて、施設の日常の様子や職員の声、先輩たちの働き方や福利厚生などの情報をお届けしていきます。

大分県福祉会ではすでに3施設がInstagramを運用しています。「明野しいのみ保育園」は3年目に突入し、動画作りも楽しくなってきました。「滝尾保育園」「えんえん」は主に地域に向けて行事や子育て支援について投稿しています。「大分県福祉会ってこんなところ」がよくわかる内容を目指し、たくさんの方に見ていただけるようにInstagram部で検討を重ねています。大分県福祉会の温かい雰囲気や仕事のやりがいを、身近に感じていただけると幸いです。福祉や保育に興味のある方は、ぜひご覧ください。







明野しいのみ保育園　滝尾保育園　地区の家「えんえん」　うえの園 清明あけぼの学園

5 ヤングケアラーの支援に取り組んでいます



児童家庭支援センター「ゆずりは」「HOPE」では、大分県の委託を受け、本来大人が担うべき家事や弟妹・家族の世話を日常的に行っている子どもたちのための「ヤングケアラー見守りあんしん拠点事業」を実施しています。

先日、対象となる子どもたちに、外食や映画鑑賞などの行事に参加してもらいました。大人からていねいに関わってもらうことにより、一人ひとりが大切な存在として安心感や心地良さを得るとともに、商業施設や娯楽施設をはじめとした社会でのルールや振る舞いを学ぶことができます。このような経験や一緒に過ごした人たちとの出会いが、少しでも子どもたちの日々の楽しみや未来への希望につながることを願っています。

6 森の木には里親支援専門相談員がいます



森の木では、2012年から里親委託推進と里親支援を目的に里親支援専門相談員を配置しています。現在２名の相談員が県南ブロックと大分市・由布市ブロックに分かれて活動しています。業務内容は、里親宅への訪問、里親家庭の休息を目的としたレスパイトケアの受け入れ、里親向けの研修への参加、各ブロックで開催されるサロンへの参加、新規里親募集説明会への参加などがあります。里親家庭それぞれに異なる悩みや困りがあるので、日ごろから関わって養育や生活の様子を聞くことで、信頼関係を構築してそれぞれの思いに寄り添っていけるように努めています。

7 子どもアドボケイト制度を導入しました



2026年度より清明あけぼの学園では、アドボケイト（意見表明等支援員）の受け入れを始めました。アドボケイトの方は、子どもたちの声や思いをていねいに拾い、必要に応じて周囲へ伝える役割を担っています。第三者であるアドボケイトの方と関わることで、子どもたち自身が「自分の気持ちを話しても大丈夫」「思いを伝えても受け止めてもらえる」と感じられる機会になると考えています。自分の声が尊重される経験を重ねることで、大人に対する安心感や信頼感を育み、自己肯定感の向上にもつながると期待しています。一人ひとりの思いを大切にしながら、安心して生活できる環境づくりや自分らしく過ごせる場づくりをしています。

8 発達障がい者支援専門員を育成しています



「大分県発達障がい者支援専門員養成研修」は、３年間にわたり医療・福祉・教育分野の講義に加え、児童発達支援センターや障がい者入所施設での実習・親の会への参加などを通して、発達障がい者支援を多角的な視点から学ぶ内容です。

清明あけぼの学園では、研修を修了し、発達障がい者支援専門員（SV）となった職員が、学んだ知識や経験を活かして、法人内の他施設で講義や助言をおこなっています。児童・障がい・保育など多様な事業を展開する法人として、施設の垣根を超えた支援や職員同士の学びの機会となっています。SVの専門的な視点とネットワークは、利用児者やその家族への支援の充実や地域社会への貢献にもつながっています。

9 「えんえん」に来てみませんか？



地区の家「えんえん」では、多目的室や相談室、キッチンなどを団体や個人に貸し出しています。たとえば、特定非営利活動法人faaamが主催する「おおいた癒しDAY」も、そのなかの一つです。子育て中の保護者の方に「少しでも心と体を休めてほしい」「ひとりではないと感じてほしい」という願いを込めて開催しているそうです。ゆっくりランチを楽しめるほか、ボディケアの施術、雑貨販売、洋服のお譲り会などもあります。ボランティアの方々による託児もあるため、保護者が自分のためにゆっくり時間を過ごすことができます。「えんえん」のそのほかの取組は、Instagramをご覧ください。

10 子育て広場「つぼみ」を開催しています



滝尾保育園では、０歳児から就学前の子どもとその保護者を対象に子育て広場「つぼみ」を開催しています。親子で楽しく遊びながら、ほっと一息つける場所を目指しています。季節に合わせた製作や親子クッキングに加え、夏祭りなど保育園の園児と一緒に参加できるイベントも計画しています。

えんえんで毎月１～２回開催していますので、「誰かとおしゃべりしたいな」「子どもと一緒に楽しめる場所がほしいな」と思ったときはぜひ気軽に遊びに来てください。年間計画や実際の子育て広場の様子など、滝尾保育園のInstagramで発信しています。

11 毎年ユニークな研修を実施しています



大分県福祉会では毎年、他施設の職員との交流や現場を豊かにする創造力や発想力を養うことを目的に、勤続10年の職員を対象とした研修やクリエイティブ研修を実施しています。昨年の「10経年職員研修」では、兵庫県を訪れ、姫路城の見学やレザーの財布作り体験を通した文化探訪をおこないました。「クリエイティブ研修」では、別府のまちを探索し、路地や建物の壁に描かれたさまざまなアートに触れ、温泉街の歴史や人々の暮らしを学ぶことで、別府の魅力を肌で実感しました。日常の業務から離れた環境で過ごすことで、あらためて地域や福祉のことを考えたり、新たな視点を養ったりする機会になっています。

2025年度の 表彰・感謝状

2025年度、大分県福祉会では９名が受賞しました。

厚生労働大臣表彰　関谷 眞佐子（うえの園・清明あけぼの学園）／全国保育士会感謝状　新名 康代（滝尾保育園）／日本保育協会永年勤続保育者表彰　児玉 真美・原口 直美・筒井 裕子（明野しいのみ保育園）／大分県社会福祉協議会 会長感謝状　小林 奈未・安藤 さおり（森の木）、山本玲香・谷川真希（明野しいのみ保育園）

この度は素晴らしい賞をいただき、大変光栄に存じます。日頃より支えてくださるみなさまの応援があったからこそと、感謝の気持ちでいっぱいです。これからも期待に応えられるよう、いっそうの努力と挑戦を続けてまいります。（関谷 眞佐子）



うえの園・清明あけぼの学園
関谷 眞佐子

大分県福祉会が目指していること

だれもが笑顔で暮らせる社会をつくる

目指していることのために実行すること

ひとりの困りごとにも　まなざしを向ける

職員一人ひとりが大切にすること／行動指針

1. 一人ひとりに寄り添うこと

支援を必要とする子どもたちや障がいのある人、困っている人の話に耳を傾け、解決策や可能性を探るために一緒に考え、行動する。

2. よりよい支援を問い続けること

時代や社会のニーズの変化を察知し、いまの支援のあり方を見直す姿勢や新たな支援のあり方を問う姿勢をもつ。

3. チームの力を信じること

多様な施設と専門性をもつたくさんの職員が、お互いを尊重し、それぞれの得意をつなげれば、困難や課題を乗りこえ、目指していることを実現できると信じる。

4. 職員も自分らしくあること

職員もその人らしくいられるよう、生活でも仕事でも自分自身の成長や自己実現に向き合う。

5. 地域とともにあること

社会や地域における私たちの役割を意識し、地域に根ざした活動をとおして、地域の人とともに福祉を実践する。

中期事業計画推進のための重点的取り組みと成果

大分県福祉会では「だれもが笑顔で暮らせる社会をつくる」の実現に向け、中期事業計画（2024～2028年度）を策定しています。計画に記載した各種項目について、それぞれ下記の取り組みを重点的におこないました。

1. 使命・理念・方針の浸透を図る

・法人サイトの改修を実施。法人の使命や理念をわかりやすく発信できるようになり、法人内外への理解促進と認知向上につなげた。
・職員一人ひとりが日々の支援において、考え方の基盤である法人の使命・理念・方針を意識できるように、法人内研修において、理解を深める機会を設けた。

2. 経営基盤の強化と法人本部の機能強化に取り組む

・社会保険労務士事務所との顧問契約により、労務管理に関する法人諸規則の見直しや改正を適切に進め、法令順守の強化と働きやすい職場環境の整備を推進した。
・前年度に引き続き、ネットリテラシー研修を発展的に実施。詐欺メール等に関する情報共有や注意喚起を随時おこなったことで、職員の情報セキュリティ意識の向上とリスク回避への対応力強化につながった。

3. 人材確保、育成および定着に向けた取り組みを推進する

・人材確保を目的としたSNS等の活用を促進し、事業所の魅力や職場環境を広く発信することで、求職者への認知向上や応募機会の拡大につながった。
・国の処遇改善事業を活用し、給与規則の改正等職員処遇の充実を図った。
・育児休業・介護休業等に関する規則の改正により、多様なライフステージや個々の事情に応じた働き方を選択しやすくなり、職員が安心して就業を継続できる環境づくりにつながった。

4. 施設の多機能化、高機能化に取り組む

・滝尾保育園の一角に児童発達支援事業所ミモザを開所し、インクルーシブな環境のもと、専門性を生かした療育を保育園と連携して取り組むことができるようになった。
・児童家庭支援センター「ゆずりは」「ＨＯＰＥ」においては、ヤングケアラー支援を通じて、当事者である子どもや保護者が自身の状況に気づくきっかけとなった。
・相談支援事業所「うえの園」では、大分県医療的ケア児支援センターの相談業務委託を受け、地域のネットワークづくりやコーディネーター養成研修の充実を図った。

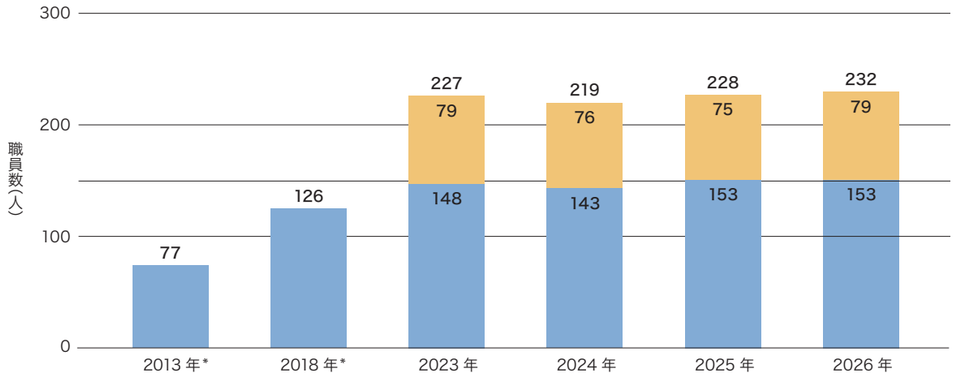
5. 地域における公益的な取り組みの推進と情報発信を行う

・2025年5月1日、地区の家「えんえん」開所により、子育て支援を中心に、地域の安心できる居場所づくりに寄与した。
・会報第90号・社内報第14号と第15号の発行、法人サイト・採用サイトの更新をした。

6. 環境保護に関連した取り組みを推進する

・各施設において、資源プラスチックの分別や紙の再利用に取り組み、資源の有効活用や職員の環境保全に対する意識向上に寄与した。

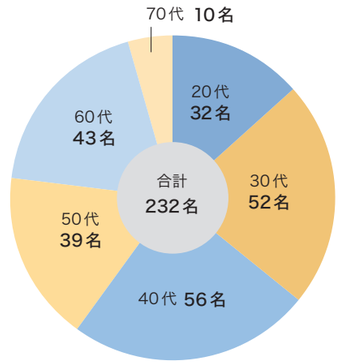
職員数推移



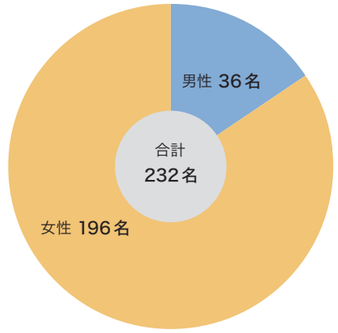
大分県福祉会では、1999年にうえの園の発足、2005年に大分市立わかば園と養護施設青松園を移転統合し、森の木が開園したことなどを受け、職員が増加してきました。その後の約20年間においても、地域小規模児童養護施設の開設、保育園の分園、児童クラブ、児童家庭支援センターや相談支援事業所の新設など、地域のニーズに合わせた事業展開をしたことで、さらなる職員の増員を進めていますが、人材確保には苦慮している面があります。

※2026年4月1日現在。＊非常勤職員の推移は、統計が始まった2023年以降のみ掲載しています。

職員年齢構成（全体）



職員男女比（全体）



※2026年4月1日現在。いずれも常勤・非常勤（パート・アルバイト）を含む。

勤続年数（2026年度）

	0～5年	6～10年	11～15年	16～20年	21～25年	26～30年	31～35年	36～40年	41～50年
常勤	65人	35人	22人	4人	12人	6人	2人	1人	6人
非常勤	42人	17人	11人	5人	2人	1人	1人	0人	0人

※2026年4月1日現在。

職種構成

	別府厚生館	うえの園	清明あけぼの学園	森の木	滝尾保育園	明野しいのみ保育園
施設長	1	1	1※うえの園と兼務	1	1	1
副施設長				1		
次長		1※サビ管と兼務		1	1	1
センター長				1		
副センター長						
サービス管理責任者		1※次長と兼務				
児童発達支援管理責任者			3※うち1名児童指導員兼務			
母子支援員	4					
少年指導員	1※事務員兼務					
生活支援員		23				
児童指導員			3※うち1名児発管と兼務	10		
保育士			5	15	42	35
相談支援員		4		10		
職業指導員			1	1		
里親支援専門相談員				2		
家庭支援専門相談員				1		
心理担当職員				3		
栄養士		1	1	1	2	4
調理員		3		4	4	
看護師		2	2	1	2	1
放課後児童支援員					5	
事務員	1※少年指導員兼務	2※うち1名森の木と兼務		1	1	
作業療法士			1			
言語聴覚士			1			
介助員			3	1		
管理宿直員	4			11		
子育て支援員						1
合計	10	37	19	65	58	43

資格構成

	別府厚生館	うえの園	清明あけぼの学園	森の木	滝尾保育園	明野しいのみ保育園
保育士	4	8	7	21	43	36
社会福祉士	1	6	2	9		
介護福祉士		6	3			
精神保健福祉士	1	3				
栄養士		2	1	2	2	4
管理栄養士		1				
調理師		2	1	3	4	
看護師		2	2	1	2	1
教員免許				6		
心理士				2		
作業療法士			1			
言語聴覚士			1			
相談支援専門員		4				
サービス管理責任者	1	3				
児童発達支援管理責任者			3			
強度行動障害支援者養成研修		7	4			
放課後児童支援員					5	
子育て支援員						1
同行援護		5				
手話通訳		2				
衛生管理者				1	1	
公認心理士				2		
学校心理士				1		
その他		2		6		
合計	7	51	25	54	57	42

※2026年4月1日現在。※1人が複数の資格を持つ場合があるため、合計は職員数と一致しません。

実習受入数（2025年度）

実習受入数 12校、延べ人数 51名　受け入れ校：**【別府厚生館 4人】**（県内）別府大学短期大学部　**【うえの園6人】**（県内）別府大学短期大学部、大分東明高等学校、大分南高等学校　**【清明あけぼの学園 13人】**（県内）別府大学短期大学部、別府溝部学園短期大学、智泉幼児保育専門学校、大分大学、大原学園　**【森の木 14人】**（県内）別府大学短期大学部、溝部学園短期大学、智泉幼児保育専門学校、東九州短期大学 /（県外）中村学園大学、香蘭女子短期大学　**【滝尾保育園 7人】**（県内）別府大学短期大学部、別府溝部学園短期大学、智泉幼児保育専門学校 /（県外）中村学園大学短期大学部、福岡女学院大学　**【明野しいのみ保育園 7人】**（県内）別府大学短期大学部、別府溝部学園短期大学

各種休暇等取得者（2025年度）

年次有給休暇	育児休業	子の看護等休暇	育児目的休暇	介護休暇	特別休暇	その他の休暇
253人	7人	26人	18人	10人	2人	12人
取得率 66.38%※	1161日	97日1時間	58回	26日6時間	17日	34日6時間

※取得時間19,155時間／保有時間28,853時間（前年度66.67%）

人材育成奨学金返還助成

別府厚生館	うえの園	清明あけぼの学園	森の木	滝尾保育園	明野しいのみ保育園	計
2人	2人	0人	5人	1人	2人	12人
125,328円	205,290円	0円	386,952円	39,996円	173,378円	930,944円

処遇改善費

	別府厚生館	うえの園	清明あけぼの学園	森の木	滝尾保育園	明野しいのみ保育園	計
公的	1,041,827円	14,526,560円	14,691,476円	10,347,930円	32,166,853円	25,787,194円	98,561,840円
法人	480,000円	1,320,000円	0円	4,279,060円	0円	0円	6,079,060円

2025年度寄贈者一覧

たくさんのご支援、ありがとうございました（順不同・敬称略）

別府厚生館

一般社団法人バンクフォースマイルズ、一般社団法人miraie、大分キワニスクラブ、小野梅子、㈱サンリオ、九州アイスクリーム協会、九州納豆組合、国際ソロプチミスト大分みどり、こども食堂つながる和音cafe、後藤正己、佐藤みどり、末永昌久、大法輪寺別府別院、西日本出版販売会社、野中博美、花井和子、非営利社団法人おふくわけ、東隆行、別府市観光協会、別府市社会福祉協議会、別府市ボランティア連絡会、別府中央ライオンズクラブ、ロクシタンジャポン株式会社

森の木

宇留島エツ子、古庄啓一・千鶴子、大法輪寺、永嶋辰也、橋本まゆみ、ダイヤモンドグループ株式会社、伊達、大和冷機労働組合、小山浩、安養寺、眞柴髙喜・和子、株式会社サニープレイスファーム、ジーピーエム株式会社、NPO法人むぎの会、花井和子、木元修司、松本和也、麻生正義、株式会社碧翠苑、九州労働金庫、九州納豆組合、大分県連合みどり会、永田尚子、株式会社ニューグロリアリゾート、株式会社ファーストリテイリング、岡部睦雄、染谷ひろみ、坂本和男、坂本淳子、株式会社パイロットコーポレーション、中内信孝、九州アイスクリーム協会（株式会社セリア・ロイル）、株式会社ホンダモビリティ九州労働組合、天使のおやつ、慎重煥・羅京善、アンビシャス国際美容学校、餃子の王将（全国食支援活動協会）、ゆうび株式会社、祐彩（一般財団法人ハートリボン協会）、渡辺萬里江、 葛城茂明、神田昌利、岩尾賢治・美穂、吉成智子、小出眞一、フレーベル館、金富翔、日本レコード協会、竹田地区更生保護女性会、織田信和、田中良美、大分県農業共済組合、全国シャンメリー協会、ほっともっと（株式会社プレナス）、日本鏡餅組合、大分県遊技業協同組合、佐藤仁宣、渡辺淳二、武野慎祐、日本製鉄株式会社労働組合、株式会社大分フットボールクラブ、ネットワンシステムズ株式会社、野嶽惇也、野村直輝、江藤行大、株式会社AIC、日本児童養護施設財団、佐世達也、池辺由美子、佐藤育美、飯倉安隆、有限会社村松水産、菅家修一、糸永和人、河野博明、大分県福祉保健部こども家庭支援課、西谷袈音、山内ひろ子、葵会館、羽田歯科医院、医療法人常和会森いとう歯科医院、中川歯科医院、永井歯科医院、二宮歯科、医療法人きし歯科ファミリークリニック、大分ケーブルテレコム株式会社、株式会社レイメイ藤井大分支店、門司一徹、阿部寿恵、株式会社堀文、おおいたのヨゼフおじさん、株式会社インホープ、学習塾ベガサス、フォトスタジオピノキオ、丹生神社（杉崎光孝）、大分県養豚協会、後藤修一、フィリップモリスジャパン合同会社、大分エージェンシー株式会社、加藤恵子、大分キワニスクラブ、長野比呂志、株式会社タカフジ、株式会社オーシートラベル事業部、安部和子、小野電設株式会社、小野悦子、キャピタルロータリークラブ、髙司洋志、大多和佳子、安部眞一郎、内野優、香々地青少年の家、すきま風、神本千尋、カーブス萩原店、了戒智恵美、孝洋電設株式会社、渡辺和郎、大石眞功、村石哲也、平岩純子、釘宮和代、西田千香子、中山邦子、大塚あかり、佐々木舞、挟間雅裕、高橋寿理、谷川真希、御手洗由子、筒井裕子、飛瀬麻美、久保田早紀、高橋智美、川野義人、嶋田和江、渡部悦子、村上好美、佐藤巴山・光子、佐藤純也

うえの園・清明あけぼの学園

飛瀬麻美、イオン九州パークプレイス大分、明治地区自治会長、九州納豆組合、竹田ライオンズクラブ、クラフティア（旧九電工）、テレビ大分営業部、大分県遊技業協同組合、長野比呂志、大同生命社会貢献の会、園田泰孝、九州電力生活協同組合、ニッタン株式会社

滝尾保育園

滝尾保育園保護者会、羽田東サロンの会、緑風苑、白寿苑

えんえん

日本連合警備株式会社、株式会社大分子どものとも社、平倉建設株式会社、UMA/design farm 原田祐馬、竹尾真由美、鬼塚電気工事株式会社、鬼塚産業株式会社、有松一郎、矢橋徹建築設計事務所、金子結花、岸木麻里子、秦野恭義、此本浩毅、羽田東自治会、ふれあいサロン羽田、上杉千恵子、佐藤歯科、学研教室

明野しいのみ保育園

明野しいのみ保育園保護者会

みなさまからいただいた寄付は、現在利用している方々や将来のより良い環境づくりなどのために役立てています。
より良い福祉の実現に向けて、みなさまのご支援を心よりお願い申し上げます。
寄付・寄贈をご検討中の方は、法人本部もしくは各施設へ事前にご相談ください。

【令和2025年度】

9月定時理事会　2025.9.24

（１）児童発達支援事業所新規設置経営について（２）定款の変更について（３）規則改正について（公印規則、経理規程、育児・介護休業等に関する規則）（４）第一次及び第二次補正予算案について（５）評議員会決議を文書によりおこなうこと及び提案事項について審議をおこない、原案どおり承認された。報告事項では、（１）業務執行状況の報告（２）地区の家「えんえん」について報告をおこなった。

10月臨時評議員会（書面決議）　2025.10.9

（１）定款の変更について審議をおこない、原案どおり承認された。

12月定時理事会　2025.12.19

（１）規則改正について（給与規則、職員就業規則、臨時職員管理規程、パートタイム労働者就業規則、再雇用者就業規則）（２）滝尾保育園の契約ついて（電気保安監視モニター）（３）第二次及び第三次補正予算案について審議をおこない原案どおり承認された。報告事項では、（１）職務執行状況の報告（２）児童発達支援事業所ミモザについて（３）地区の家「えんえん」について（４）指導監査の結果について（５）2025年度第１回福祉サービス運営委員会報告について報告をおこなった。

2月臨時理事会（書面決議）　2026.2.18

（１）定款の変更について（２）評議員会決議を文書によりおこなうこと及び提案事項について審議をおこない、原案どおり承認された。

3月臨時評議員会（書面決議）　2026.3.1

（１）定款の変更について審議をおこない、原案どおり承認された。

3月定時理事会　2026.3.23

（１）規則改正について（給与規則、経理規程、職員就業規則、臨時職員管理規程、パートタイム労働者就業規則）（２）うえの園短期入所運営規定の変更について（３）契約について（滝尾保育園　椅子とテーブルの購入、うえの園　公用車リース、森の木　公用車リース）（４）補正予算に伴う積立資産の取崩しについて（５）2025年度第一次、第三次及び第四次補正予算書案について（６）2026年度事業計画案について（７）当初予算に伴う積立資産の取崩について（８）2026年度当初予算案について審議をおこない原案どおり承認された。報告事項では、（１）職務執行状況の報告（２）地区の家「えんえん」について（３）指導監査の結果について（４）2025年度第２回福祉サービス運営委員会報告について報告をおこなった。

【2026年度】

5月定時理事会　2026.5.26

（１）規則改正について（給与規則、経理規程、海外研修旅行規定）（２）2025年度第四次及び第五次補正予算について（３）2025年度事業報告及び決算について（４）2025年度監事監査報告について（５）評議員選定委員の選任について（６）定時評議員会の開催について審議をおこない、原案どおり承認された。報告事項では、（１）職務執行状況の報告、（２）2025年度森の木基金活用実績について（３）今後の予定について報告をおこなった。

6月定時評議員会　2026.6.15

（１）2025年度事業報告及び決算について（２）2025年度監査報告について審議をおこない原案どおり承認された。報告事項では、（１）2026年度事業計画及び当初予算について（２）2025年度森の木基金活用実績について（３）今後の予定（夏期職員研修会）について報告をおこなった。

福祉サービス運営委員会　2025年度第１回　2025.11.10

法人事務局３階会議室において開催された。理事長、委員長のあいさつの後、2025年度前期の重点的取り組み、利用者等からの苦情や要望、事故報告及びヒヤリハットについて、法人本部及び各施設から報告をおこない協議がおこなわれた。委員からは、外国籍の入所利用者の有無について質問があった。また、「入所者の日常的な様子が伺えるようなつながりの機会となる方法を考えてほしい」「SDGsの体験など、先のことを目指してより良い保育をしていると感じている」「架け橋プログラムを楽しみにしている」などのご意見をいただいた。総評では、職員の負担や人が足りているのか、困りごとがないか、働き方や時間の工夫など機会があれば悩みごとなどを知らせてほしいとのご意見をいただいた。
各施設が自分の足場を固め、職員の方の負担を軽減していけるようにと考えているが、職員採用には苦慮している。とはいえ、いろいろな策をとりながら人材確保をおこなっており、職員数は規定以上に確保している。子どもの笑顔のために、職員一同懸命に取り組んでいきたいとの理事長のあいさつで会を閉じた。

2025年度第２回　2026.3.12

法人事務局３階会議室において開催された。理事長、委員長のあいさつの後、2025年度後期の重点的取り組み、利用者等からの苦情や要望、事故報告及びヒヤリハットについて法人本部及び各施設から報告をおこない協議がおこなわれた。委員からは、災害時の対策について、「避難場所などを事前にご家族に伝えることで安心していただける」「雑談でもよいので、子どもと外部の方が話をする機会を作っていくことはよいと思う」。児童クラブについては、申し込み多数のため抽選に漏れた子どもの状況などについてご意見をいただいた。また、人材確保に関する法人の状況についての質問もあった。
総評では、「社会全体が人手不足・労働力不足に苦慮している。転職への抵抗がなくなってきたことも要因の一つ。職員確保も大変ななか、各施設の報告を聞き、ていねいに取り組まれていることがわかった。職員の方への負担軽減にも配慮を」とのご意見をいただいた。
委員の方からのご意見を各施設の運営に活かしていくこと、１年間の委員会への参加の御礼と引き続き法人運営についてのご理解とご協力をお願いしたいとの理事長のあいさつで会を閉じた。

夏期職員研修会　2026.8.8

法人の職員が集まる夏期職員研修をトキハ会館で開催した。第１部では「福祉現場で使えるAIの活用術（基礎編）」と題し、講師に今長 学氏を招いた研修を実施。今後のAI活用による創意工夫と業務改善の促進に期待が高まった。第２部では、役員等のみなさまもご出席され、感謝状の贈呈や新採用職員の紹介など和やかな雰囲気のなかで親睦を図ることができた。施設の垣根を越えた意見交歓や情報共有を通じて、法人全体の一体感の醸成とチームワークの向上につながる有意義な時間となった。また、当日会場に設置した募金箱には32,530円が寄せられ、日本赤十字社大分市地区を通じて、「令和８年熊本地震災害義援金」へ全額を寄付した。

人事異動（2026年４月１日付）

【昇格】
《うえの園》
サブリーダー　甲斐 直穂
《清明あけぼの学園》
サブリーダー　清水 美佳
《森の木》
サブリーダー　小林 奈未
サブリーダー　安藤 さおり
《滝尾保育園》
次長　野々下 智春
《明野しいのみ保育園》
次長　児玉 真美
サブリーダー　重田 綾

【転任】
《別府厚生館》
江藤 淑子（うえの園）
《うえの園》
渡邉 志穂（清明あけぼの学園）
《森の木》
山上 さとみ（別府厚生館）
《明野しいのみ保育園》
香田 沙紀（別府厚生館）

【新採用】
《別府厚生館》
生野 恵理子
《うえの園》
楠本 理奈
《清明あけぼの学園》
柳井 利優
今村 鈴
《森の木》
外池 早織
髙野 鈴
小野 彩花
並松 のどか
《滝尾保育園》
萩尾 美芳
伊達 あゆみ
野田 かほり

【退職】（2026年３月31日付）
《うえの園》
久野 みどり
《森の木》
井手 彩記子
岩崎 祐貴
山本　萌
《滝尾保育園》
釘宮 和代
中野 秀子
《明野しいのみ保育園》
小松 敏美
本田 真唯

2025年度の法人本部、および各施設の収支報告です。
大分県福祉会事務局および各施設においては、関係書類の閲覧に応じる用意があります。

単位：円

資金収支計算書

勘定科目	法人本部	別府厚生館	うえの園	清明あけぼの学園	森の木	滝尾保育園	明野しいのみ保育園	合計
事業活動収入	10,546	39,153,205	167,727,316	99,044,423	426,636,266	330,408,851	248,360,022	1,311,340,629
事業活動支出	9,928,473	43,600,106	169,329,171	101,810,375	395,610,601	315,006,600	232,800,473	1,268,085,799
事業活動資金収支差額	△ 9,917,927	△ 4,446,901	△ 1,601,855	△ 2,765,952	31,025,665	15,402,251	15,559,549	43,254,830
施設整備等収入	0	0	0	0	30,000	109,360,000	0	109,390,000
施設整備等支出	465,960	322,520	1,612,820	157,410	2,027,000	118,126,730	7,706,050	130,418,490
施設整備等資金収支差額	△ 465,960	△ 322,520	△ 1,612,820	△ 157,410	△ 1,997,000	△ 8,766,730	△ 7,706,050	△ 21,028,490
その他の活動収入	22,479,677	3,000,000	12,300,000	9,392,194	4,010,735	2,653,530	150,400	53,986,536
その他の活動支出	9,236,757	450,400	6,809,514	5,893,427	20,888,920	5,490,632	4,463,880	53,233,530
その他の活動資金収支差額	13,242,920	2,549,600	5,490,486	3,498,767	△ 16,878,185	△ 2,837,102	△ 4,313,480	753,006
当期資金収支差額	2,859,033	△ 2,219,821	2,275,811	575,405	12,150,480	3,798,419	3,540,019	22,979,346
前期末支払資金残高	2,721,700	6,491,744	34,441,706	13,429,741	49,855,151	27,098,231	23,465,207	157,503,480
当期末支払資金残高	5,580,733	4,271,923	36,717,517	14,005,146	62,005,631	30,896,650	27,005,226	180,482,826

事業活動計算書

勘定科目	法人本部	別府厚生館	うえの園	清明あけぼの学園	森の木	滝尾保育園	明野しいのみ保育園	合計
サービス活動収益計	0	37,402,346	166,362,218	96,493,196	420,593,981	323,233,697	244,428,684	1,288,514,122
サービス活動費用計	11,018,703	45,874,219	172,434,970	102,544,454	400,816,372	323,018,716	240,333,880	1,296,041,314
サービス活動増減差額	△ 11,018,703	△ 8,471,873	△ 6,072,752	△ 6,051,258	19,777,609	214,981	4,094,804	△ 7,527,192
サービス活動外収益計	70,546	1,750,859	1,365,098	2,551,227	6,042,285	7,175,154	3,931,338	22,886,507
サービス活動外費用計	0	0	685,007	376,279	2,920,980	624,283	385,642	4,992,191
サービス活動外増減差額	70,546	1,750,859	680,091	2,174,948	3,121,305	6,550,871	3,545,696	17,894,316
経常増減差額	△ 10,948,157	△ 6,721,014	△ 5,392,661	△ 3,876,310	22,898,914	6,765,852	7,640,500	10,367,124
特別収益計	0	0	0	0	△ 1,759,265	109,360,000		107,600,735
特別費用計	6,890,057	0	12,504	6,252	△ 1,108,323	301,629,659	159,002	307,589,151
特別増減差額	△ 6,890,057	0	△ 12,504	△ 6,252	△ 650,942	△ 192,269,659	△ 159,002	△ 199,988,416
当期活動増減差額	△ 17,838,214	△ 6,721,014	△ 5,405,165	△ 3,882,562	22,247,972	△ 185,503,807	7,481,498	△ 189,621,292
前期繰越活動増減差額	△ 176,106,106	49,768,432	86,955,629	38,147,780	246,361,714	303,436,591	71,201,432	619,765,472
当期末繰越活動増減差額	△ 193,944,320	43,047,418	81,550,464	34,265,218	268,609,686	117,932,784	78,682,930	430,144,180
基本金取崩額	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の積立金取崩額	1,020,620	3,000,000	12,300,000	3,820,000	3,300,000	0	0	23,440,620
その他の積立金積立額	346,700	0	0	1,100,000	2,500,000	0	0	3,946,700
次期繰越活動増減差額	△ 193,270,400	46,047,418	93,850,464	36,985,218	269,409,686	117,932,784	78,682,930	449,638,100

貸借対照表

勘定科目	法人本部	別府厚生館	うえの園	清明あけぼの学園	森の木	滝尾保育園	明野しいのみ保育園	合計
流動資産	5,973,672	8,762,069	44,505,857	28,888,967	76,987,353	50,208,652	36,789,703	252,116,273
固定資産	4,017,727	37,554,892	159,776,232	47,011,040	552,664,566	668,730,869	439,449,927	1,909,205,253
資産の部合計	9,991,399	46,316,961	204,282,089	75,900,007	629,651,919	718,939,521	476,239,630	2,161,321,526
流動負債	505,139	4,490,146	7,788,340	14,883,821	14,981,722	24,664,002	15,796,477	83,109,647
固定負債	78,650	2,697,477	14,423,554	8,007,480	28,508,445	129,235,081	149,714,608	332,665,295
負債の部合計	583,789	7,187,623	22,211,894	22,891,301	43,490,167	153,899,083	165,511,085	415,774,942
基本金	23,798,445	0	0	0	0	19,557,000	30,312,000	73,667,445
国庫補助金等特別積立金	0	4,758,430	101,207,332	33,787,281	133,370,636	455,470,341	199,007,019	927,601,039
その他の積立金	0	1,500,000	8,440,000	1,100,000	258,650,000	2,000,000	22,950,000	294,640,000
次期繰越活動増減差額	△ 14,390,835	32,870,908	72,422,863	18,121,425	194,141,116	88,013,097	58,459,526	449,638,100
純資産の部合計	9,407,610	39,129,338	182,070,195	53,008,706	586,161,752	565,040,438	310,728,545	1,745,546,584
負債及び純資産の部合計	9,991,399	46,316,961	204,282,089	75,900,007	629,651,919	718,939,521	476,239,630	2,161,321,526

※2026年3月31日現在。

別府厚生館

定員　16世帯　　現員　6世帯　（2026年8月末時点）

力を入れていること

母子が心から落ち着いて暮らせる環境が、すべての支援の出発点であり基盤です。この原点に立ち返り、日々の生活の安心と安全を確実に守るため、支援体制の質をさらに高める取り組みを進めています。また、家族の在り方が多様化するなかで、それぞれの関係性にていねいに寄り添い、必要な支援を適切に届けられるよう関係性の充実に力を入れています。さらに、質の高い支援を実現するための研修にも積極的に参加しています。

Q 広域入所ってなに？

A 母子生活支援施設には、さまざまな理由で入所された方々がいます。配偶者や親族からのDVが入所理由としてもっとも多く、施設で安全・安心に過ごしながら自立を目指します。広域入所とは、現在の居住地にとどまることに危険があるため、居住地外の自治体の施設を利用することです。母子生活支援施設の多くが広域入所の受け入れをしており、児童養護施設や障がい児入所施設などの児童福祉施設とは大きく異なる特徴です。



館長　安東 一夫

「全母協ビジョン2026」では、産前産後支援・家族関係構築支援・アフターケアを基盤に、高機能化・多機能・多角化の視点をもち、妊産婦や困難を抱える母子、若者、地域の子育て家庭まで支援を広げ、地域と協働しながら予防から自立まで切れ目く支援することが求められています。私たちも地域の包括的家庭支援拠点へ進化することを目指します。





森の木

定員　36名　　現員　27名　（2026年8月末時点）

力を入れていること

施設の多機能化については、児童家庭支援センター（大分市・佐伯市）や一時保護専用施設を開設するなど先進的に取り組んできました。本園を含め、それぞれの機能の充実強化を図るとともに、これらを担う職員およびその専門性の確保のため、園内研修の充実や外部研修への派遣など積極的に取り組みます。また、生活困窮者支援事業や高齢者ふれあい事業などの社会貢献活動も継続していきます。

Q リービングケアとアフターケアの取り組みとは？

A リービングケア（施設を退所する前の準備期間におこなう支援）の一環として、生活訓練棟で「ひとり暮らし体験」をします。予算内での食材購入・弁当作り・起床から登校準備などを全て１人でおこないます。市役所や金融機関、弁護士などとも連携した講座もあります。アフターケアでは、金銭管理や人間関係の悩み、部屋の掃除ができないなどの課題が多いです。定期的な連絡により、退園後の孤独感や不安感を減らし、安心して社会生活が送れるようサポートしています。



施設長　安藤 覚

児童養護施設として入所者一人ひとりの最善の利益を第一に考え、安心して成長できる環境づくりに努めています。児童家庭支援センターと一時保護施設を併設する強みを生かし、関係機関との連携をさらに深め、子どもと家庭を切れ目なく支える、地域に信頼される施設を目指します。





うえの園

定員　20名　　現員　20名　（2026年8月末時点）

力を入れていること

入所施設では、災害や感染症など緊急時にも安心してサービスを利用していただけるよう、事業継続計画（BCP）に基づいた研修や訓練を定期的に実施し、職員が適切に対応できる体制づくりを進めています。また、利用者一人ひとりの思いや希望を大切にし、言葉だけでなく表情やしぐさからも気持ちをくみ取りながら意思決定支援に取り組んでいます。権利擁護の視点を大切にした意思表明支援を通じて、本人の意向に沿ったその人らしい暮らしの実現に努めています。

Q 視覚障がいのある方の支援はどうしているの？

A うえの園では視覚障がいのある方も生活をしています。散歩や行事などの外出時には、支援員が手引きをして移動をします。「同行援護従事者養成研修」に参加した支援員が、手引きの基本や留意点などを新任職員へOJTを通して指導し、安全・安心に楽しく外出できるようにしています。周囲の状況をわかりやすい言葉で伝えながら、視覚障がいのある方の「目」となり、不安を安心に変えられるよう細やかな声かけと配慮を心がけています。



園長　関谷 眞佐子

職員が利用者一人ひとりに適切な支援を提供できるよう、専門的な研修を積極的に受講し、支援力の向上に努めています。また、人材確保につながる働きやすい職場づくりについて、職員全員で考え、取り組んでいきます。





清明あけぼの学園

定員　10名　　現員　10名　（2026年8月末時点）

力を入れていること

子どもたちが自分の価値を実感し、自己肯定感を高めることは、自立への大切な一歩です。日々の関わりのなかで、成功体験や肯定的な声かけを重ね、自己理解を深め、自分の想いや希望を大切にする力を育んでいます。定期的にアドボケイトを受け入れ、安心して意思表明できる機会も設けています。学校や関係機関とも連携し「できない」ではなく「どうすればできるか」をともに考える大切さを広め、子どもたちが主体的に人生を歩む支援の環境づくりにも力を入れています。

Q どのような児童がいて、
どのような支援をおこなっていますか？

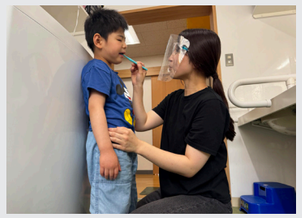
A 児童の障がい特性は、身体障がい・精神障がい・知的障がいなどさまざまで、入所理由も虐待や養育困難など多岐にわたります。なかには、言葉の理解や順序立てた行動、周囲とのコミュニケーション、集団生活への参加が難しい児童もいます。そのため、日々の生活の中で一人ひとりの様子や行動の背景をていねいに観察し、特性や発達段階に応じた支援として、性教育やTEACCHプログラム、トラウマインフォームドケアなどをおこなっています。



園長　関谷 眞佐子

子どもの特性や思いに気づき、理解しようと努めることが、安心して過ごせる生活環境につながります。日々の関わりを大切にしながら、子どもたちが安全で自分らしく過ごせる支援に努めていきます。





滝尾保育園

定員　200名　　現員　206名　（2026年8月末時点）

力を入れていること

「子どもの主体性を伸ばし、一人ひとりの心が満たされる保育をおこなう」これは永遠の課題であり、取り組みに終わりはありません。保育の質の向上を目指して地道な研修を繰り返しています。主体的・対話的な学びのある保育（遊び）のため、保育環境構成の工夫や生活日課の安定を重視しています。子どもにとって最大の環境は、大人（保育者）であることを各職員が認識するようにもしています。結果、遊びに没頭したり、達成感を味わったりする姿が多く見られ、気づく力や何事にも挑戦しようとする気持ちも育っています。

Q 育児担当保育とは？

A ０～２歳児クラスでは、保育者１人が３～６人の子どもを担当します。排泄や食事など日々の生活を一緒におこなうことで、一人ひとりの様子や癖、好みを細かく把握することができます。また、同じ保育者がていねいに関わることで、情緒が安定し安心して過ごすことができ、愛着形成につながります。保護者にも子どもの姿をより詳しく伝えられるため、信頼関係づくりにも役立っています。



園長　堤 郁夫

2018 年度から放課後児童クラブを運営しています。定員は 91 名で、約６割は本園卒園児です。園同様、子どもの生活・学びの環境づくりや生活日課の安定に力を入れています。子どもたちは、職員の優しくもあり厳しくもある支援を受けながら、見通しをもって放課後の時間を過ごしています。最近３年間は定員を上回る入会希望者がありました。





明野しいのみ保育園

定員　152名　　現員　147名　（2026年８月末時点）

力を入れていること

子ども一人ひとりの「やってみたい」の気持ちが引き出せるよう毎年保育の更新をおこなっています。今年度も絵本をはじめとした保育環境の充実を図るため、講師を招いた学び合いの機会をもっています。絵本は、子どもたちの感じ方や発想が活かされ、「やってみたい」の主体性につながる大切なプロセスだと感じます。遊びを発展させ、豊かな学びとなるよう私たちも園内研修を通して「子どもの世界を一緒に楽しむ大切さ」を学んでいきます。

Q ノンコンタクトタイムってなに？

A 職員の働きやすい環境づくりと保育の質向上のため、月に１回「ノンコンタクトタイム」を導入しています。この時間は、月案やおたよりの作成・制作準備などの事務作業を「勤務時間内」に集中しておこないます。事務作業を保育時間と切り離して確実に終えることで、計画的な業務遂行と残業削減を推進しています。職員が心身ともにゆとりをもって子どもたちと向き合い、日々の保育に全力で取り組める体制を整えています。



園長　阿南 奈緒美

昨今 AI の普及が進むなか、保育現場でも環境改善や質の向上の鍵として AI の活用が不可欠です。データの記録や情報共有など AI が得意な分野を効率化し、職員が子どもたちと向き合う時間をより多く創出する。これこそが私たちが目指す「ていねいで温かい保育」につながります。今後も賢くテクノロジーを取り入れ、より良い保育に努めます。





相談支援事業所 うえの園

相談支援事業所うえの園では障がいのある方やご家族の気持ち、想いに寄り添い、その人が快適に地域生活や社会生活を送ることができるようにサポートをおこなっています。相談支援専門員が、障がいのある方やご家族のみなさまからの相談に応じ、住み慣れた地域で安心して生活ができるよう、障害福祉サービスなどをご利用の際に必要な「サービス等利用計画および障害児支援利用計画」を作成いたします。また、希望に応じた適切なサービス利用がおこなえているかどうかを一定期間ごとにモニタリングし、よりよいサービスを提供できるように状況に応じて関係機関との調整をおこないます。みなさまの「これから」を一緒に考えます。お気軽にご相談ください。

月曜日～土曜日（祝祭日は除く）10:00～18:00
お問い合わせ先　097-574-8535

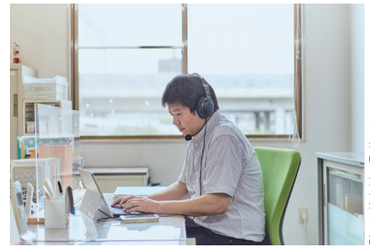


Photo:Koichiro Fujimoto

相談支援専門員が、障がいをお持ちの方やご家族のみなさまからの相談に応じます

児童家庭支援センター　ゆずりは/HOPE

児童家庭支援センターは、児童福祉法によって設置されている相談機関です。子どもの発達や子育てに関することや家庭、学校、毎日の生活のことなど、どんなことでも相談できます。保護者の方、子ども本人、地域の方など、どんな方のご相談にも応じ、相談支援員や心理士が、お電話や訪問、来所によってお話をうかがいます。
・ショートステイ/トワイライトステイ事業…大分市や県南地域の市町村からの委託を受け、ショートステイ・トワイライトステイ事業をおこなっています。
・大分くらしサポート事業…生計困難者等に対する生活・相談支援事業に参画しています。 生活困窮者へ物資援助と支援、３カ月月間の見守りをおこないます。
・子育てサロンるんるん♪（ゆずりはのみ）… 保護者の負担軽減や子どもへの体験活動の提供など家庭支援のため毎月１回ゆずりはや近隣施設で実施しています。



Photo:Koichiro Fujimoto

子育てサロンるんるん♪の活動風景

地区の家「えんえん」

「えんえん」は、子どもや保護者・地域の方々がゆるやかにつながり、みんなの居場所となることを目指す地区の家です。保育園と公園をつなぐ位置にある開かれた環境のなかで、子どもたちの育ちを見守りながら地域との交流や支え合いを大切にしています。子育て家庭だけでなく、地域で暮らすさまざまな世代の人たちが気軽に立ち寄れる場でもあります。地域活動への部屋貸しやマルシェの開催、子育てサロンなど、地域のつながりを育む取り組みをおこなっています。また、病後児保育「ミント」にて、病気の回復期のお子さまをお預かりしています。ご利用を希望される方は、滝尾保育園までお気軽にご連絡ください。

月曜日～金曜日
10:00～18:00
病後児保育 ミント　月曜日～金曜日（祝祭日は除く）8:30～17:30／定員 ５名
お問い合わせ先　097-569-3384



さまざまな世代の人たちが集まる地域食堂

児童発達支援事業所 ミモザ

児童発達支援事業所 ミモザでは、発達に特性のあるお子さま一人ひとりの思いや育ちに寄り添い、安心して過ごせる温かな環境のなかでそれぞれの「できた」を大切に育んでいます。遊びや日々の活動を通して作業療法士による感覚面や身体づくりへの支援、言語聴覚士による言葉やコミュニケーションを育む個別療育、保育者による工作や季節の製作、遊びを通して楽しく学べる活動を取り入れています。お子さまの発達段階や特性に応じて、環境調整や適切な支援方法を取り入れながら、生活に必要な力や社会性を育んでいます。また、保護者の方の想いにも寄り添いながらご家庭や関係機関と連携し、お子さまの成長をともに支えていきます。

月曜日～金曜日　①8:40～11:50　②14:30～16:10／定員 10名
お問い合わせ先　070-4001-9448



Photo:Naoto Kojima

個別訓練の様子

概要

法人名	社会福祉法人 大分県福祉会
所在地	〒870-0025　大分県大分市顕徳町１丁目13-17
電話番号	097-532-3472
FAX番号	097-532-3475
代表者	理事長　安藤 覚
運営施設	母子生活支援施設 別府厚生館 障害者支援施設 うえの園 相談支援事業所 うえの園 障害児入所施設 清明あけぼの学園 児童発達支援事業所 ミモザ 児童養護施設 森の木 地域小規模児童養護施設 きんもくせい 地域小規模児童養護施設 さくら 児童家庭支援センター ゆずりは 児童家庭支援センター HOPE 一時保護所　明日葉 保育所 滝尾保育園 放課後児童支援事業 滝尾児童クラブ 地区の家 えんえん 保育所 明野しいのみ保育園

評議員・理事・監事

【評議員】

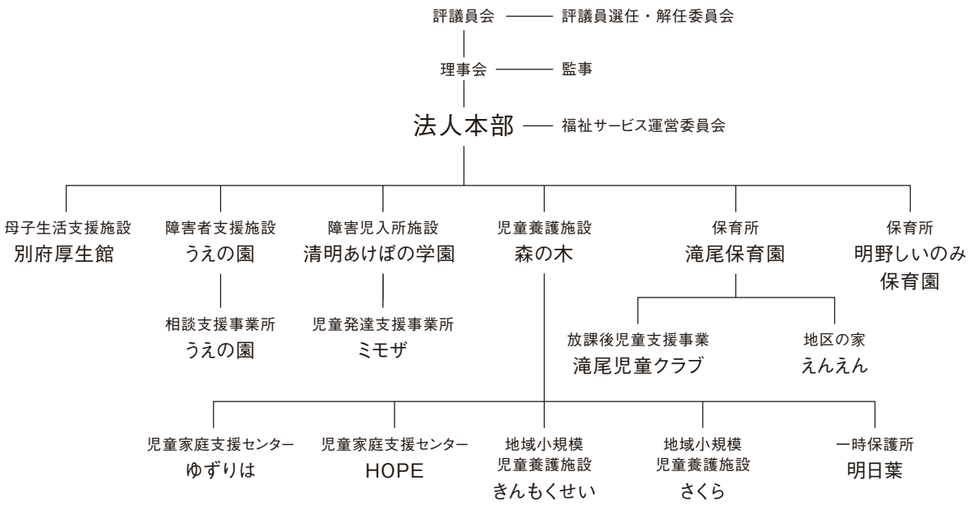
氏名	就任年月日
麻生 栄作	2017年４月１日
衛藤 憲一	2017年４月１日
工藤 修一	2017年４月１日
齋藤 國芳	2017年４月１日
秦 昭二	2017年４月１日
仲元 研二	2017年４月１日
平岩 純子	2017年４月１日
森脇 宏	2025年６月17日

【法人役員】

役職	氏名	就任年月日
理事長	安藤 覚	2022年４月１日
常務理事	関谷 眞佐子	2024年６月18日
理事	後藤 哲臣	2017年６月15日
理事	安東 一夫	2021年６月18日
理事	飯田 法子	2025年６月17日
理事	髙山 美津子	2025年６月17日
監事	佐藤 純也	2025年６月17日
監事	髙山 英明	2025年６月17日

※任期…評議員：2025年６月17日から2029年定時評議員まで、
理事・監事：2025年６月17日から2027年定時評議員会まで

組織図



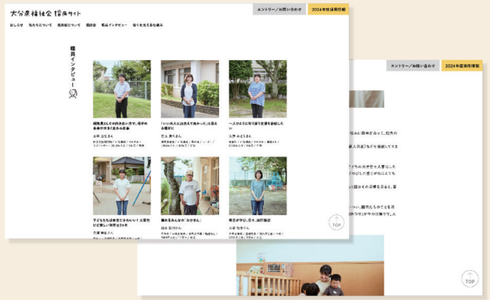
沿革

大分県福祉会の前身は、社会福祉・社会保障などに関する大分県の４団体が統合された財団法人 大分県福祉事業協会です。
1952年に社会福祉法人となり、現在のような子どもや母子、障がい児者に関係するさまざまな特色をもつ６施設を運営するにいたります。

1946（昭和21）年	恩賜財団軍人援護会大分支部が、別府市で別府厚生館を設立。別府市で、母子寮ならびに保育事業を開始
1949（昭和24）年	児童福祉法の施行に伴い、大分県が大分県盲児施設清明寮を創設。大分県児童福祉協会に経営を委託
1950（昭和25）年	大分県ろうあ児施設あけぼの寮が発足
1951（昭和26）年	恩賜財団同胞援護会大分県支部、大分県民生委員連盟、大分県社会援護協会、大分県児童福祉協会が統合され、財団法人大分縣社会福祉事業協会が設立される。それぞれの運営施設を財団が継承
1952（昭和27）年	財団法人大分縣社会福祉事業協会から、社会福祉法人大分縣社会福祉事業協会へと組織変更。名称を社会福祉法人 大分県福祉会に変更する
	矢野 六七吉、初代会長就任
1958（昭和33）年	養護施設春日園の経営を引き継ぎ、新たに養護施設青松園が開園　※2005年にわかば園と青松園は統合され、児童養護施設森の木となる
1962（昭和37）年	有松岩彦、二代目会長就任
1966（昭和41）年	大分厚生館（母子寮）、大分洋裁授産場廃止
1968（昭和43）年	滝尾保育園が開園
1969（昭和44）年	ろうあ児施設あけぼの寮をあけぼの学園と改称
1971（昭和46）年	大分県盲児施設清明寮が、清明学園と名称変更
1973（昭和48）年	しいのみ保育園が開園
1980（昭和55）年	有松崇、三代目会長就任
1986（昭和61）年	簡易住宅新生寮廃止
1993（平成５）年	滝尾保育園新園舎が完成
1994（平成６）年	簡易住宅協生寮廃止
	あけぼの学園、清明学園が合築施設として新たに発足。県立の盲児施設、県立のろうあ児施設から社会福祉法人設置の施設となる
1996（平成８）年	しいのみ保育園を明野しいのみ保育園と改称
1999（平成11）年	あけぼの学園、清明学園の合築施設に、知的障害者更生施設うえの園が新設される
2001（平成13）年	あけぼの学園、清明学園、うえの園の総合呼称が「福祉ハウス・クローバー」に決定する
2002（平成14）年	大分県福祉会50周年
2005（平成17）年	大分市立わかば園と青松園を移転統合した児童養護施設森の木が開園
2007（平成19）年	有松一郎、四代目会長就任
2010（平成22）年	児童養護施設森の木が、地域小規模施設きんもくせいをスタート
2011（平成23）年	自立支援法に基づく障害者支援施設うえの園と名称変更
2012（平成24）年	あけぼの学園と清明学園を統合し、清明あけぼの学園に改称
2014（平成26）年	明野しいのみ保育園に分園開設
	児童養護施設森の木が、地域小規模施設さくらをスタート
2016（平成28）年	児童養護施設森の木が、児童家庭支援センター ゆずりはを開設
2017（平成29）年	滝尾保育園新園舎完成
2018（平成30）年	一時保護事業明日葉を開始
	滝尾保育園で放課後児童支援事業 滝尾児童クラブがスタート
2020（令和２）年	明野しいのみ保育園新園舎完成
2021（令和３）年	児童養護施設森の木が、児童家庭支援センター HOPEを佐伯市に開設
2025（令和７）年	滝尾保育園の隣接地に、制度のはざまにいる子どものケアとご近所さんの顔がみえる拠点 地区の家「えんえん」開設
	安藤覚、五代目理事長就任
	清明あけぼの学園が、児童発達支援事業所ミモザを滝尾保育園敷地内に開設

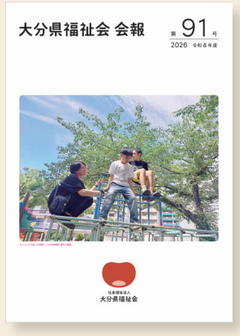
私たちの想いを伝えるメディア

大分県福祉会ってどんなところ？ どんな職業の人が働いているの？
いろいろな疑問にお答えできるよう、施設の雰囲気や実際に働く職員の想いや
日々の支援の様子などをさまざまなメディアを通してお伝えしています。



採用Webサイト

勤務形態や勤務条件などの採用情報だけでなく、実際に働いている職員のインタビューや対談を紹介しています。写真も豊富で、法人や各施設の雰囲気を詳しく知ることができます。応募をご検討中の方はもちろん、たくさんの方に見ていただきたいです。



会報

法人内外のみなさまに大分県福祉会のニュースや各施設の取り組みの進捗をお伝えし、より透明性の高い、より地域にとって親しみやすい法人を目指しています。



法人Webサイト・法人パンフレット

各施設の特色や魅力を職員で再考しながら作成、それぞれの福祉事業をわかりやすく紹介しています。今後も随時アップデートする予定です。パンフレットのPDFは、法人Webサイトからダウンロードして、ご覧いただけます。





Instagram

採用に向けて各施設の雰囲気や仕事内容など職員のリアルな気持ちを伝えたり、地域へ向けてイベントや子どもたちの活動などを伝えたり、大分県福祉会を身近に感じていただける情報を発信しています。ぜひフォローしてください。

明野しいのみ保育園　滝尾保育園　地区の家「えんえん」　うえの園 清明あけぼの園

社会貢献活動

大分県福祉会は、利用者のみなさま、地域のみなさま、職員がつながりながら、
さまざまな社会貢献活動をしています。

別府厚生館

●別府八湯温泉まつり：別府市子ども会育成会連合会のメンバーとして、子どもたちが創作した神輿で湯けむり総パレード参加や別府市の祭りなどの催事に参加しています。
●災害時の緊急避難場所：災害時の地域の避難所として施設を利用できるよう、地域と締結しています。
●夕涼み会：年に1回、地域の方や退所した家族も参加できる祭りを開催しています。食べ物の出店、子どもたちが考えたゲームコーナーやビンゴ大会などをして交流をしています。
●よろしくの会：地域、学校、関係機関、利用者、そして職員がそれぞれの立場を超えて、よろしくお願いしますという想いを共有し、連携を深める会をおこなっています。


別府八湯温泉まつり

森の木

●賀来校区一人暮らし高齢者ふれあい交流会：賀来公民館と民生委員が中心におこなっていた事業に「福祉同士のつながりをもてたら」と森の木や賀来校区内の福祉施設が加わり、共同で実施するようになりました。毎年7月に地域の一人暮らしの高齢者を公民館と森の木に招待し、歌や健康体操、食事会をおこないます。高齢者や民生委員、公民館関係者など約100名が参加します。2月には7月に参加できなかった高齢者を含めて、約200食のお弁当を作って民生委員に届けていただいています。
●森の木餅つき大会：年末に地域の方々（森の木自治会）、日本製鐵、森の木が共同でおこなっています。多い年は100名以上が集まり、一緒に餅をつき、つきたての餅や豚汁を囲んで食事をして交流しています。
●賀来神社おとも太鼓：毎年、賀来神社の祭りで「おとも太鼓」に小学生が地域の練習に参加し、当日は太鼓を叩きながら地域を練り歩いています。
●賀来公民館まつり：賀来公民館祭りに、森の木として毎年綿菓子の出店をしています。


もちつき大会

明野しいのみ保育園

●地域清掃：月に1回、近くの公園や保育園周辺などのごみ拾いをおこなっています。
●保育園ホールの貸し出し：年に1～2回、明野しいのみ保育園の多目的ホールを地域の話し合いの場として貸し出しています。
●地域サロン：4、5歳児を対象に地域サロンの方々との交流の場を設けて、わらべうた遊びをしたり、季節の制作をしたりしています。
●青少年赤十字花いっぱい運動：道路沿いの花壇にチューリップを植えて地域の歩道を花で明るくし、道ゆく人を楽しませています。
●おゆずり会：保護者会の協力を得て、ご家庭で役目を終えた子ども服をお預かりし、必要とされる方へおゆずりする取り組みをおこなっています。余った服は、ポリオワクチンなどの支援に使われています。


地域清掃

うえの園・清明あけぼの学園

●AED研修：年に1回地域の方にも参加していただき、職員と一緒にAEDの使い方の学習をおこなっています。施設内にあるAEDの場所を確認し、いつでも貸し出しができることをお伝えしています。
●福祉避難所：台風などの災害時に大分市の要請に応じて、障がいのある方と付き添いの方の福祉避難所として登録をしています。施設内の一部スペースを開放し、非常食や寝具類などを提供できるようにしています。
●地域清掃：大分市一斉清掃日には、施設で生活している人たちも職員と一緒に地区の清掃に参加をしています。また、秋には日頃利用している公園や歩道のゴミ拾いや草取りをしています。


地域清掃

滝尾保育園

●えんえん空色マルシェ：2022年から地域活性化を目的に開催している「たきお青空マルシェ」を2025年5月から「えんえん空色マルシェ」と改めて開催しています。5月のマルシェでは、キッチンカーや手作り雑貨や職員の手作りドリンク、ワークショップの出店で交流を図りました。また、年長園児によるエイサーや地域の羽田神楽を披露してもらい盛り上がりました。
●羽田東公園愛護会活動：地域の方とともにえんえんに隣接する公園や野原の環境整備に取り組んでいます。「のはらクラブ」を発足し、野原の整備をしたり、月1度子どもたちと一緒に草取りやゴミ拾いをおこなったりしています。
●地域交流：地域のふれあいサロンの方や緑風苑・白寿苑に入所している方と、年に数回に交流しています。


えんえん空色マルシェ

伝統行事
友情の蛍

友情の蛍は、2026年度で74回を迎える歴史ある行事です。以前は学園でおこなっていた交流も、近年は竹田市を訪れる形が定着してきました。毎年、竹田市立竹田小学校のみなさんと交流を深める中で、いただいた蛍を大切に育て、孵化した幼虫を里帰りさせています。こうした長年の取り組みが評価され、公益社団法人小さな親切運動本部より、竹田小学校とともに「小さな親切実行章」の表彰を受けました。













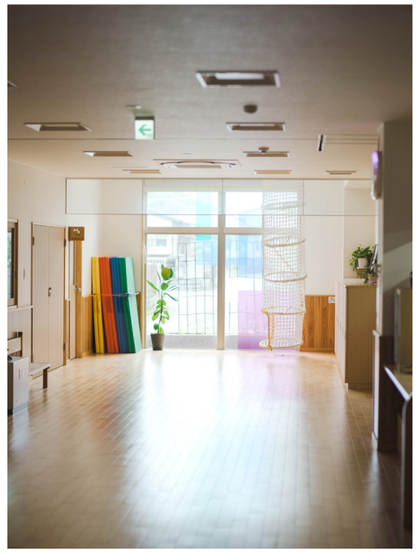


Photo:Naoto Kojima



ひとりの困りごとにも　まなざしを向ける

まわりの情報をぐんぐん吸収して、日々変化していく子どもたちは、
まるで社会や環境を測るものさしのようです。
子どもたちが笑顔になれる場所は、周りの大人も職員も地域も
みんなが笑顔になれる、どんな人でもきっと生きやすい場所です。

「大分県福祉会」では、そうした場の実現を目指して、
子どもを中心に多岐にわたる事業をおこなっています。
年齢や障がいの有無、家庭環境に関係なく、みんなが笑顔になるには、
既存の枠組みのなかでは、行き届かないこともたくさんあります。

だからこそ、このもどかしい気持ちを原動力に変えて、
まだ見えていない人々の生きづらさに向き合い、
真っ先に手を差し伸べられる存在であるために、考えることを諦めないこと。
それが、私たち大分県福祉会の役割だと考えています。



各施設の連絡先・事業内容

母子生活支援施設
別府厚生館

TEL 0977-22-0418（24時間受付） FAX 0977-25-9211 メール b-kouseikan@oitakenfukushikai.com
母子生活支援／緊急一時保護事業・ショートステイ／子育て相談

障害者支援施設
うえの園

〒870-0823 大分県大分市東大道2-3-3
TEL 097-546-3551 FAX 097-543-4414 メール uenoen@oitakenfukushikai.com
施設入所支援／生活介護事業（通所の方を含む日中の活動）／短期入所事業（宿泊）／日中一時支援事業（日帰り）

障害児入所施設
清明あけぼの学園

〒870-0823 大分県大分市東大道2-3-3
TEL 097-546-3771 FAX 097-543-4414 メール uenoen@oitakenfukushikai.com
障害児入所施設／一時保護委託事業／短期入所（宿泊）／日中一時支援事業（日帰り）／盲児・ろうあ児等専門支援事業／
児童発達支援管理責任者による相談受付／発声発語訓練

児童発達支援事業所
ミモザ

〒870-0942 大分県大分市大字羽田456
TEL 070-4001-9448 FAX 097-567-3811 メール mimosa@oitakenfukushikai.com
児童発達支援事業／保育所等訪問支援事業

児童養護施設
森の木

〒870-0862 大分県大分市大字中尾457-1
TEL 097-549-3508 FAX 097-549-0535 メール morinoki@oitakenfukushikai.com
児童養護施設／地域小規模児童養護施設：さくら・きんもくせい／一時保護所 明日葉／児童家庭支援センター ゆずりは・HOPE／
里親支援／ショートステイ・トワイライトステイ

保育所
滝尾保育園

〒870-0942 大分県大分市大字羽田456
TEL 097-569-3384（滝尾児童クラブ TEL 080-8592-2479） FAX 097-567-3811 メール takio@oitakenfukushikai.com
0～5歳児保育 / 滝尾児童クラブ

地区の家
えんえん

〒870-0942 大分県大分市大字羽田432
TEL 097-569-3384 メール enen@oitakenfukushikai.com
一時預かり保育 / 病後児保育 / 子育て広場・子育て相談 / 地域交流

保育所
明野しいのみ保育園

〒870-0164 大分県大分市明野西2-25-2
TEL 097-558-2211 FAX 097-556-6944 メール akenoshiinomi@oitakenfukushikai.com
0～5歳児保育／子育て広場・子育て相談

相談事業の連絡先

児童家庭支援センター
ゆずりは

〒870-0025 大分県大分市顕徳町1-13-17
TEL／FAX 097-574-8525（24時間受付） メール jikasen.yuzuriha@oitakenfukushikai.com

児童家庭支援センター
HOPE

〒876-0853 大分県佐伯市中村東町3-18
TEL 0972-28-6317（24時間受付） FAX 0972-28-6324 メール jikasen-hope-@oitakenfukushikai.com

相談支援事業所
うえの園

〒870-0025 大分県大分市顕徳町1-13-17
TEL 097-574-8535（月～土 10:00～18:00 ※祝祭日は除く）

社会福祉法人 大分県福祉会　会報 第91号

発行日：2026年9月30日　発行者：安藤 覚

〒870-0025 大分県大分市顕徳町1-13-17
TEL 097-532-3472 FAX 097-532-3475 メール honbu@oitakenfukushikai.com

編集責任：阿南 奈緒美（明野しいのみ保育園 園長）
編集委員：大垣 夏希・城戸 海咲妃（森の木）、田中 那知（別府厚生館）、平安 智哉・中村 太亮（うえの園）、清水 美佳・平野 大輔（清明あけぼの学園）、
松川 愛・合澤 実佑（滝尾保育園）、重田 綾・田代 真実・大嶋 美月（明野しいのみ保育園）
顧問：関谷 眞佐子（大分県福祉会事務局長）・安東 一夫（大分県福祉会顧問）
編集ディレクション：竹尾 真由美　　デザイン：UMA/design farm